

歴史ごった煮闇鍋マガジン

ひすとり!



ひすとり!とは

Twitter上で展開されている、**歴史** × **エンタテイメント**を意識したゆるやかなつながりの名称です。参加者は東西を問わず史学の研究者から歴史を楽しむ一般の方まで様々です。主催者がいるわけではなく、固定のメンバーがいるわけでもない自由な空気の元に、突発的に歴史に関するあれこれのつぶやきがTL上に発生します。そんな**ひすとり!**に関わる方々に自分の研究分野や興味対象をモノで表していただき@sdtが絵にし、この驚異の部屋に展示しました。「**驚異の部屋**」とは、大航海時代以降のヨーロッパにおいて、珍奇なものジャンルを隔てず集め陳列する部屋のこと。王侯貴族から聖職者・学者などの手によって作られた「**驚異の部屋**」は、現在の博物館や美術館の原型でもあります。この部屋に並べられたひとつひとつに、様々な背景があります。どうぞ、ごゆっくりご覧下さい。

「**ひすとり!**」は、歴史を面白くするだけでなく、最新の歴史学や考古学に関する情報を提供し、読者の興味を喚起することを目的としています。

@zorro9

■ロレンスのためにつくられたアラブの短剣

映画「アラビアのロレンス」で有名な『T.E.ロレンス』というイギリス人は、波瀾万丈の人生を送った非常に面白い人物です。映画では失意のうちに消え去っていくように見えるロレンスですが、実は砂漠を去ってからもまだまだアラブのために行動しています。機械好きの一面もあり、英国空軍において水上飛行機救助艇の設計にたずさわりました。さらに、青年時代から「美しい本をつくりたい」という夢を持っていた彼は代表作「知恵の七柱」を執筆したり、「オデュッセウス」の翻訳もしたりと、『行動するロマンチスト』であり続けました。映画はかなり脚色されてはいますが、決してロレンスの本質を損ねていないと思います。情熱、才能、カリスマ性、そして謎めいた内面。映画でロレンスを好きになったのなら、是非、もう一步奥へどうぞ。決して損はいたしません。

■ヴァイキング船

ヴァイキングは犯罪者の集団ではなく、ヨーロッパ世界を構成する北方民族でした。片手に商売のための秤（はかり）を、もう片方の手に襲撃のための剣を持ち、富を得るための航海に出ることが生活の一部だったのです。たいていは収獲物を持って帰路につきましたが、行った先で永住することもありました。新しい知識や技術を取り入れるのも得意で、活力にあふれた人々だったのだらうと思われます。

ヴァイキングを知ることとは当時のヨーロッパを知ることになり、非常に興味深いです。

■帆船

帆船は、優雅で美しいのはもちろんですが、何よりそこに注がれた技術と労力に圧倒させられます。特に帆走させる時の力強さは人間の歴史を動かしたエネルギーそのもの。エンジンを積んだ船の力強さも素晴らしいのですが(映画「タイタニック」がわかりやすい)、普段は我々の目に触れませんので、帆船が一番わかりやすいわけです。「船」を追っていると、結果的に歴史全体を扱うことになり、広く楽しめます。

@jinnai_oliva

■原始的な弓

人間の最も優れた発明品は弓であるという話を聞いた事があり、大変に興味を持ったので人工物の頂点に描いて頂きました。古くから現代まで残っているものは、間違いなく良品であると信じています。

■19世紀半ばの女性をモチーフにした人形と小道具

その時代に流行ったファッションが持つ意味、そのスタイルに込められた主張と、時代背景との関連を調べています。今回は産業革命後のファッションと小道具を使って、ブルジョアが実権を握り始めた時代を表現してもらいました。近年のスタイルはあまりにも混沌としていて面白みを感じないのですが、20世紀前半以前は時代背景と絡んでいるスタイルが多いので、大変に興味深いです。'60～'70年代になると、各スタイルの主張がはっきりしていてこれもまた面白いですね。

■キメラ犬

犬を飼っていたり、闘牛が好きで闘牛を研究していたりするのですが、これらの事から普段感じている世の中の「ゆがみ」を、キメラ犬という形で表現してもらいました。

闘牛はよく「動物虐待」「古臭い野蛮な文化」等と揶揄されます。しかしスペインではこの文化があったからこそ、徹底して自然に近い環境で牛を飼育してきたのであり、それゆえBSEの発症率が極端に低かったという事実は、あまり知られていないことと思います。一方、愛犬家やブリーダーの一部が、外見から得られる美感を求めて意図的に犬の近親交配を繰り返しており、結果として生命を脅かす重大な欠陥を持った犬が沢山生まれています。

なんともおかしな話ですが、これらは時代が進む事によって世の中に生じた、何らかのゆがみなのでしょうね。そういった一見見逃してしまような裏の部分にとっても興味があります。

「ひすとり!」は、歴史を面白くするだけでなく、最新の歴史学や考古学に関する情報を提供し、読者の興味を喚起することを目的としています。

「**ひすとり!**」は、歴史を面白くするだけでなく、最新の歴史学や考古学に関する情報を提供し、読者の興味を喚起することを目的としています。

「**ひすとり!**」は、歴史を面白くするだけでなく、最新の歴史学や考古学に関する情報を提供し、読者の興味を喚起することを目的としています。

「**ひすとり!**」は、歴史を面白くするだけでなく、最新の歴史学や考古学に関する情報を提供し、読者の興味を喚起することを目的としています。

「**ひすとり!**」は、歴史を面白くするだけでなく、最新の歴史学や考古学に関する情報を提供し、読者の興味を喚起することを目的としています。

@na_kanoh

■長岡外史像

長岡外史(1853～1933)は明治～大正期に活躍した長州藩(山口県)出身の陸軍軍人。晩年は衆議院議員。出身地である山口県下松市の外史公園に長岡外史像は建てられています。本物はもっと大きいです。最大で約70センチにも達した長岡のヒゲは国内外で有名になり、ドイツの刃物メーカー「ゾーリングゲン」のマスコットキャラにもなりました。

長岡外史は明治10年代に若手軍人たちによって作られた、私的な勉強・研究団体「月曜会」の創設メンバーの一人です。彼ら若手の軍人たちは、軍隊を強くすることで、西洋列強が闊歩する国際環境の中で日本の独立を守り、また国内の治安を安定させて国家をより発展させようとなりました。そして同時に自分たちの立身出世も実現しようとしたのです。そのために月曜会メンバーはフランスやドイツの最新の軍事学や武器技術に関する情報を集め、勉強会を開いたり同人誌を発行したりします。

しかし、軍隊組織の結束強化を目指していた軍上層部の意向によって、私的な行動の目立つ月曜会の活動は次第に圧迫されていきます。この処置に怒った長岡は、軍内部に力を持つ長州藩の出身でありながら(明治維新で活躍した長州藩や薩摩藩出身者は軍や政府内部で重用されやすかった)、長州藩や薩摩藩出身者が軍や政府の内部で権力を持つことを激しく批判するようになりました。彼らの行動は同時代に大きな物議を起こしましたが、最終的には軍の方針を受け入れ、長岡もものちの日清戦争・日露戦争を支える重要な役職を歴任していきます。

na_kanohは明治時代の政治史・軍事史を研究しており、このような歴史的事件を分析することで、国家の運営・政治に対して軍人はどのような立場を取るべきか、といった大きな問題について考える手がかりとしたいと思っています。現在の問題で言うと、自衛隊の田母神氏の論文や発言が政治問題化した件を想像してもらおうとわかりやすいでしょう。長岡像は美術・芸術的に意味のある展示物ではありませんが、「ひすとり!」に日本史好きが混ざっていることをアピールしようと思い、エントリーしてみました。「**驚異の部屋**」のにぎやかに役立っていれば嬉しいことです。

@nob_de

■ガスマスク

ドイツ現代史(空襲、民間防空、戦後の記憶文化、市民社会)を専攻。総力戦時代の新戦争テクノロジーである空襲と、それに対する防空措置や防空組織を「空襲の恐怖イメージ」「社会の軍事化・軍事の社会化」「民間動員における人々の自発性・非自発性」を軸に分析しています。

今回、@sdtさんに描いていただいたガスマスクは、第一次世界大戦という総力戦の象徴であり、来るべき未来戦争が毒ガスによる無差別殺戮戦争になることを暗示する防具でした。毒ガスは人間の生存条件である「空気」を攻撃する空間兵器として登場し、その防具が人間の個性を奪い匿名化するマスクであったことは、現代戦争を様々な意味で象徴しているのではないのでしょうか。これに関しては、ペーター・スローターダイクの『空襲』が鋭い指摘をしています。薄くて読みやすいので、ご一読をオススメいたします。シビれます。他にはポール・ヴィリリオの諸著作も、私の研究に影響を与えています。

「**ひすとり!**」は、歴史を面白くするだけでなく、最新の歴史学や考古学に関する情報を提供し、読者の興味を喚起することを目的としています。

戦後の記憶文化に関しては、ドレスデン空襲の公的記憶をめぐる議論について調べています。日本でもドレスデン空襲の名はある程度知られています。しかし、その死者数や規模などは、日本でも「神話化」されている面があり、その点を修正するために研究紹介的な論稿を書きました。

ヴァイマル期ドイツの空襲像と民間防空研究は、http://bit.ly/dtcKDRで公開されています。ドレスデン空襲については『季刊 戦争責任研究』(59号、2008年)に掲載されています。ちなみに両者を発展させた研究論文は書籍収集論文として刊行される予定ですので、これからもドイツ史関連の書籍情報をチェックしていただければ幸いです。

他には、歴史ライター(自称ヒストリーコミュニケーター)、伸井太一の名義で活動を始めています。こちらでは、トラバントをはじめとする東ドイツの製品文化に関する書籍を刊行しました。東独の自動車・バイクや建築からエロ本、トイレトペーパーに至るまでを、大量の画像資料とサブカル風の記述を用いて扱っています。宣伝になってしまいましたが、ぜひご一読orご一覧下さい。

「**ひすとり!**」は、歴史を面白くするだけでなく、最新の歴史学や考古学に関する情報を提供し、読者の興味を喚起することを目的としています。

「**ひすとり!**」は、歴史を面白くするだけでなく、最新の歴史学や考古学に関する情報を提供し、読者の興味を喚起することを目的としています。

「**ひすとり!**」は、歴史を面白くするだけでなく、最新の歴史学や考古学に関する情報を提供し、読者の興味を喚起することを目的としています。

@harumaki_r

■彩色写本『カトリヌ・ド・クレーヴの時祷書』

時祷書とは、教会や修道院で使われていた聖務日課書を一般信徒向けに編纂した書物ですが、依頼主の嗜好にあわせて制作されているため、それぞれが実に変化に富んでいます。1440年代に制作された本書は192ミリ×130ミリと比較的小さなサイズで、全体的に女性らしさを感じさせる装飾が施されていて、特に聖人を扱っているページの囲み飾りが非常に美しいデザインとなっています。現在はニューヨークのモルガン・ライブラリーが所有しており、以下URLのデジタルアーカイブにて全細密画を見ることができます。http://www.themorgan.org/collections/works/cleves/

「**ひすとり!**」は、歴史を面白くするだけでなく、最新の歴史学や考古学に関する情報を提供し、読者の興味を喚起することを目的としています。

■纏足靴

纏足を靴のデザインという新たな側面からとらえ直した本が『纏足の靴』(ドロシー・コウ著、平凡社)。現代人にしてみれば残酷な風習である纏足ですが、当時の女性にとって重要な儀式であり、身体の延長としての纏足には大きな意味が込められていました。刺繍のモチーフでメッセージを伝えるなど、女性たちのコミュニケーションの手段ともなった靴は、地方ごとに形態や素材、デザインに特色があり、その土地の伝統芸術文化の一端を担っていたのです。

写本絵師には名前の知られている人もいますが、基本的には彩色写本も纏足靴も、芸術家というよりは職人に近い無名の人々の手によるもので、そうした人々の丁寧な手仕事から当時の社会を伺い知ることができるという点に魅力を感じます。ひとつひとつの物を通じて、顔の見えない作り手についてもあれこれと想像してしまうのです。

@davidsbundler

■ウッチェロの「聖ゲオルギウスと竜」に描かれた竜

“Ars longa, vita brevis!”

「芸術は長く、人生は短し！」

その訳のせいか、よく誤解される格言です。芸術＝art（英）＝ars（羅）とは芸術というよりは技術のことであり、なにごとくも技術を身につけるのは難しく時間がかかるけれども、それに比べて私たち人間に許された時間のなんと短いことか…というような意味です。

いまの芸術作品はとても洗練された技術を用いていたりして、ものを美しく描くも醜く描くも思いのまま、はたまた表象に固執せずに抽象を追求するも自由です。それはたいてい、作家の長い努力と練習のうえに成り立っているものですが、はたしてそれだけでしょうか。その裏には、それまでの何百年、何千年にも及ぶ芸術の歴史が隠れているのではないのでしょうか。

14～15世紀のイタリア、特に中央部は一般に「ルネサンス」と呼ばれる文化が開いた時期です（ルネサンスなのか中世なのかは場所と分野によって意見の分かれるところですが）。このルネサンスを期に、西洋美術は大変革をとげることになります。私はこの、ちょうど画家や彫刻家たちが新しい芸術を手にしようと試行錯誤しては失敗あるいは前進してゆく時代が大好きです。三巨匠の時代、すなわちレオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロの時代に比べると少し不器用、でもよくよく見ると頑張っている痕跡がはっきりくっきり見えてきます。私には、ルネサンスと共にいわゆる「人間化」されたのは単に芸術上の描写だけでなく、作家自身をも含んでいたのだと思えてなりません。

そんなわけで、イタリアにおける末期中世～初期ルネサンスの芸術・文化を大学ですこし勉強しております。ジョルジョ・ヴァザーリの『画家・彫刻家・建築家列伝』はバイブルです。ヴァザーリになりたい。

@miso_butter

■琵琶と小鼓

私は日本に生まれ、日本人の両親を持ち、日本で育ったのに、なぜ、日本の文化や芸能を知らないのだろう？

自分の原点がそこにあるかもしれないのに。

日本の歴史や芸能に魅かれるのは、自分の原点を探す行為だからかもしれない。

能や雅楽や、日本の芸能は「とっつき難い」「眠い」「難しい」。そう考えられてるなら、一度実際に感じてみて欲しい。

少し印象が変わるかもしれない。

だって、伝統芸能って、ロックで、パンクでイケイケなんだもん！

映画を見に行く感覚で、伝統芸能に親んで欲しい。

私は研究者じゃないから、難しいことはレクチャー出来ない。

だけど、一緒に楽しむことは出来る。

「伝統芸能って楽しいんだよ！」と伝えていきたい。

@gasenetta

■セノグラフィ版画

セノグラフィとは、主に舞台などの空間演出を指します。

西洋の舞台美術は伝統的に線遠近法と密接な関係があり、特にバレエは群舞のフォーメーションや、ダンサーの体の使い方や動きの形にまでその影響が強く見られます。1994年、英国ロイヤルバレエ団は『眠りの森の美女』で遠近法を意図的にぐにやりと崩した独創的な舞台セットを使ったプロダクションを発表し、好評を博しましたが、一部の専門家からはその遠近法の使い方に対する強い批判が出たものです。

当方、古今東西の舞踊好き、美術史好きで、上記のような芸能史や舞台芸術における空間把握に興味を持っている一介の趣味人です。『驚異の部屋』企画では、この興味を端的に視覚で表すことができるものとして、17世紀の舞台セットの版画をリクエストしました。

これと対照的なのが日本の能で、観る側の視点を一点に固定せず、背景には常に老松が描かれ、夢の中の出来事のように舞台上の距離感が曖昧に変容します。東西それぞれの特徴を生んだ価値観や思考法、歴史っていったい……？

というところに興味があるのですが、そこは素人、実はピシッパシッと教えてくれる方モトム、状態です。

@NijiKarainbow

■聖フランシスコのスティグマの図：中世の俗人信仰運動の興隆

■マンジャの塔：世界を計るものとしての鐘楼と都市世界

■驚異や異端すらを含む世界である『書物』とその『世界』を映す『鏡』

歴史に闇はあるのか？それは私たちが気がつかなかったもの、目を背けてきたもの、隠してきたものかもしれないが、ただ単にあるものに光を当てて、その影ができただけかもしれない。

過去、『書物』は世界を映す鑑であった。この鑑を通して、人は思索し世界を把握しようとしていた。その後、人々はこの『世界』の外に出会ってしまった。今まで見てきたもの読んできたものが、世界の全てではないことに気付いてしまった。拡大する『世界』は、今度は把握できないほどの情報を人々に与えた。今、人々は新たな『書物』を作り出し、この情報をまとめ、『世界』をもう一度把握しようとしている。しかし、それは『世界』の全てであるのか？私たちは、本当に世界を知ることができるのであろうか。

@k_ayuno

■ガウディがデザインした椅子

アントニオ・ガウディはその建築物が広く知られている人物ですが、彼はその建物の中の家具などのデザインも手がけていました。このカサ・カルベットの事務用椅子もその一つで、ガウディの特徴の一つである自然物になぞらえた造形の例に漏れず、背もたれが心臓の形をしています。しかしガウディのデザインする家具の素晴らしい点の一つは、その造形が単純な見た目だけのものではなく、人間工学に則した快適に使えるものである点です。この椅子も、頻繁に座りなおすことのないような座り心地のいい設計になっています。

スペイン内戦中、カサ・カルベットの一階の窓が爆弾で吹き飛ばされたとき窓の後ろにあった椅子がぼろぼろに飛び散ってしまったものの、接合部分が外れただけですぐに元に戻すことができたというエピソードは、これらの家具が非常に正確さと厳格な合理性に基づき研究され、部品の一つ一つが丁寧に作られ組み立てられたことを示しています。

@Zuraaaa

■蓄音機

研究内容という程のものではないのですが、ベートーヴェンを中心にしたクラシック音楽の楽聖たちをメインに、イラストやデータベース等を展示して楽しんでいます。サイトへのアクセスはこちらからどうぞ。http://twt.tl/8tMU6MV

@TUvH

■書籍の行商人（の置物）

18世紀末のウィーンの出版（物）

書籍そのものでは芸がないので、可能であれば、書籍の行商人（の置物）をリクエストしたいと思います。

ウィーン博物館で実際に陶器製の像がありました。

イメージとしては、カバンの中に新聞やパンフレットの類を入れて、カフェなどで売りさばっていた感じです。

■近世の死刑に用いられた車輪

もう一つ、近世の死刑に用いられた車輪をリクエストしたいと思います。

http://bit.ly/WiX72 http://bit.ly/bXpBKy

@saisenreiha

■処刑された再洗礼派指導者の遺骸を入れた三つの檻

ミュンスター再洗礼派

ドイツ北西部の中心都市ミュンスターの中心部にある聖ランベルティ教会に黒々とそびえる尖塔には、三つの重々しい鉄の檻が吊されています。

この檻が教会の尖塔にかけられたのは、今から500年ほど前のことです。何故そんなことになったかを知るためには、かつてミュンスターという街で起こったヨーロッパ史上最も特異な千年王国運動について振り返る必要があります。それが、ミュンスター再洗礼派運動です。

1517年にマルティン・ルターが「95箇条の提題」を公表して以来ドイツを席卷した宗教改革の波は、ドイツ北西部の中心都市であったミュンスターにも押し寄せてきました。

しかし、ミュンスターでは、1534年に再洗礼派と呼ばれる急進派が市政を握り、彼らの君主であるミュンスター司教と1年半にわたり争うこととなりました。再洗礼派は当時危険なセクトだと見なされていましたが、その彼らが地方の中心都市を支配し、自分達の君主と戦争を繰り返り広げるというのは、当時の人々にとっても想像を絶することでした。

ミュンスターの再洗礼派は、ミュンスターはキリストが再臨する新しきエルサレムであると喧伝し、他の地域から多くの再洗礼派を移住させました。さらに彼らは都市の伝統的な制度を全て廃止し、財産を共有し、一夫多妻制を導入しました。こうしてミュンスター再洗礼派は、長きに渡りミュンスター司教達と黙示録的な戦いを繰り返げたのでした。

しかし、彼らの戦いは悲惨な敗北に終わり、市内にいた男はほぼ皆殺しにされ、再洗礼派の指導者達は捕らえられました。そして1536年1月22日、再洗礼派の三人の指導者が拷問・処刑された後、その亡骸を収めた三つの檻が、聖ランベルティ教会に吊されたのです。このような忌まわしい出来事が二度と起こらないように、人々に警告するためでした。

そして1536年に聖ランベルティ教会の尖塔に吊された三つの檻は、現在もそのまま吊されています。しかし長い年月が経つ間に、ミュンスター再洗礼派運動はもはや忌まわしい事件ではなく、ミュンスターを代表する歴史的事件として街のアイデンティティの一部となり、三つの檻も、すっかり街のシンボルになっています。長い年月はその出来事が持つ意味を大きく変える、聖ランベルティ教会の尖塔にかけられた三つの檻は、そんなことを物語っているのです。

@segawa

■獅子の足をかたどった脚の書見台と粘土板文書

紀元前3000年の昔、ティグリス・ユーフラテス河に栄えたメソポタミア文明。シュメールやアッシリアといった国々で、人々は世界最古の文字の一つを生み出しました。大河の河辺の泥をこねて書板とし、そこに生い茂る葦を手折って筆として、かの「ギルガメシュ叙事詩」や「ハンムラビ法典」を初めとする数々の神話や文書を残したのです。彼らの書板「粘土板文書」は、紙や羊皮紙とは比べものにならないほど頑丈で堅固。五千年以上を経て現在まで残り、古代の地層の中から我々の前に姿を現します。

アッシリア人は巨大な「図書館」を建造しました。掌に収まるものから人の体よりも大きなものまで、数千を数える粘土板文書を、収集し分類して、彼らの土地からはずっと遠く離れたところから運んできた木材で作った棚に収めて、灯りは土地に湧く天然のアスファルト、建物は粘土板文書と同じ泥を太陽の光で乾かして作る「日干し煉瓦」を積んだもの。行き来するのは黒い髭をたくわえ、麻の服に身を包み、時には瑠璃石や紅玉髓の首飾りや飾り帯を帯びた、専門の教育を受けた書記官達。彼らの宮殿は繊細な浮彫や絢爛な壁画で飾られていましたし、彼らの家具もまた美しいものでした。書記官達は「図書館」で探し当てた目当ての粘土板を、ランプの光を近付けて読むため、書見台に置くこともあったでしょう。その机の四本の脚は、青銅で鑄造された、百獣の王ライオンの足を模した先端を持っています。

獅子……それはメソポタミアの人々にとって、特別な意味を持つ獣でした。それは強大なものであり、高貴なものでもありました。野生の力の権化であり、王を象徴するものでもありました。アッシリアやペルシアの王達は、馬に牽かせた戦車に乗り、槍と弓とで武装して、豪華な衣装を身に纏い、そうして臣民の前で獅子と闘争をおこなったのでした。強大なる獣に打ち勝つ王の姿に、民衆は惜しみない賛美を送ったのです。そうした王の姿は、彼の宮殿の壁に浮彫として記録されました。獅子はまた、生命溢れる夏を象徴するものでもあり、野生とは古代の人々にとって、打ち勝つべききものであると同時に畏怖すべききものであり、そしてまた大いなる隣人でもあったのです。

「獅子の足を象った脚を持つ机」は、メソポタミアからギリシャ、ローマへと受け継がれて、今日多くの遺品を見ることができます。その上に乗せられた書板の形も文字も変わっても。



企画：眼鏡の瓶底 sdt

http://fweb.midi.co.jp/~scarlet/

協力：ひすとり！

http://wikiwiki.jp/wesmag/